

患者の皆様へ

2024年3月4日 消化器内科

現在、消化器内科では、「保存血清検体を用いた肝細胞癌における新規バイオマーカーの解析」に関する研究を行っています。今後の診断や治療に役立てることを目的に、この研究では、令和元年7月31日までの期間の肝疾患患者さんの診療情報や血液検体などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名：「保存血清検体を用いた肝細胞癌における新規バイオマーカーの解析」

2. 研究の意義・目的：肝細胞癌の治療は、早期の段階で発見できれば手術等の根治的治療が選択され、発見が遅れた場合は、根治的治療は適応外となります。本邦では、早期発見のために肝細胞癌のバイオマーカーとしてAFP/AFP-L3分画/PIVKA-IIの3つが用いられておりますが、有用とならない場合が少なくありません。また様々な治療方法がある中、それらの治療の効果を予測する標準的なバイオマーカーは見つかっておりません。このような現状から、本研究では非肝疾患、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌患者さんの過去に採取した血液検体を用い、血清RNAや蛋白質の解析を試み、肝細胞癌における新規バイオマーカーを解明することを目的とし、最終的には、新しい診断法や効果予測法を開発することが目標です。

3. 研究の方法：令和元年7月31日までの期間に採取された非肝疾患、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌患者さんの血液検体を使用し、血清RNAや蛋白質発現量を測定します。診療情報（年齢、性別、人種、身長、体重、飲酒量、合併症、既往歴、内服薬、生存期間、肝移植の有無、血液検査値、組織所見、画像所見など）と比較検討します。研究期間は平成30年4月から令和8年3月31日までです。

4. 個人情報の取り扱いについて：本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表の際には、患者さんの氏名などは一切公表致しません。データ等は、千葉大学大学院医学研究院消化器内科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について：ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し

出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院消化器内科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院消化器内科 医師 加藤直也

043 (222) 7171 内線 5241 (消化器内科医局)